（別紙4）　　平成 24 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3671400236		
法人名	有限会社　おりの		
事業所名	グループホーム　ぽかぽか		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12－1		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成25年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症専門の事業所として日々向上を図っている。専門職としては、法人全体で、介護に携わるものの有資格者率が高い、看護師1名、准看護師3名、介護福祉士21名、介護支援専門員11名在籍し、介護福祉士については、ほぼ半分の者が資格を取得している。専門的な知識、技術を活かして、入居者の皆様が、人生の最期にここで生活が送れて幸せだったと言って頂けるよう介護ケアを図っている。事業所の特徴として、ほぼ9割以上の方が、GH施設で看取りを行わさせていただいている。協力医療機関、主治医Drとの連携も密に図れており、医療面では在籍する看護師4名を中心に日々の健康管理を図っている。自然豊かな宍喰というう土地柄が、入居者様、家族様、職員全てを豊かにしてくれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、海や山に囲まれた場所に位置しており、近隣には公園や温泉等の設備もある。同一法人の運営する併設事業所と合同で行事を行ったり、見守り等の協力体制を構築している。季節に応じて近隣の散歩や買い物に出かけている。また、地域の行事へ参加したり、事業所の行事に近隣住民を招待したりして、双方向的に交流を行っている。職場内・外の研修会への参加や資格取得への取り組みを積極的に実施している。医療職員の配置を充実させるとともに、協力医療機関と密に連携を図っている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念『温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を提供します』があり、その代表として、「人生最期の時を過ごしたい」、「私の人生は幸せだった」と心から感じて頂けるよう、介護サービスを行います。朝礼、ミーティングで毎日唱和している。また、事務所、フロアに啓示している。	全職員で地域密着型サービスの意義について話しあっている。法人の理念に基づく事業所独自の理念を作成している。朝礼時に理念を唱和し、日ごろの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事ごと、祭り等の催し物については、入居者の方の状態、また季節的なことも考慮し、安全に参加できるよう支援している。	日ごろから近隣の公園等へ散歩に出かけたり、町内の港祭りや運動会等の行事等へ出向いたりして、地域住民との交流を図っている。保育所の子どもたちの来訪や小・中学校の生徒の体験学習を積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、また居宅介護支援事業所等からの相談もあります。また、入居希望、そうでない相談も電話等でいただき、これまで培った認知症症状の理解、支援方法の相談をしている。また、分からないことは医療連携機関のDrに相談し、少しでも相談者が安心していただけるよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね年6回以上の開催を行っています。取り組みの状況報告、行事、事故報告、事故対応についての報告を行い、様々な意見をいただき、報告書にまとめ職員に周知し、サービス向上に活かしている。	年6回、運営推進会議を開催している。事業所の取り組みや活動状況を報告している。避難訓練等の災害対策に係る協力関係や改善課題について意見交換を行っている。出された意見等は、事業所の運営やサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回は行政担当者窓口へ出向いています。また、わからないこと、つたえるべき事は電話での連絡も密に行えています。また、行政担当者が運営推進会議への参加もあり連携を図っている。	管理者は、町担当窓口を訪問し事業所の実情や活動状況を伝えている。困難事例について相談や助言を得るなど、日ごろから密に連携を図って協力関係の構築に努めている。町担当者に事業所の会議へ出席してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事項は玄関先にも啓示しており、身体拘束を行わないようケアに取り組んでいます。常時、職員会議、ミーティング等において、身体拘束にあたるか、また、近い状態であるかを話し合い、身体拘束がないよう心掛けている。	職員会議やミーティング等の機会に話しあい、全職員で身体拘束の弊害を理解するよう取り組んでいる。併設事業所の職員と見守り協力体制について再検討を行い、施錠すること無く利用者の安全確保と抑圧感のない自由な暮らしの支援へと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待がないよう日々職員の処遇に気を付け、また、他職員からの情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。時に全員周知で、管理者申し送りを行い、日々の処遇について考えさせる機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、GHには日常生活自立支援事業、成年後見の入居者の方はおられないが、併設するサービス付き高齢者向け住宅の入居者には対象者がいるので、担当者と一緒に話しをさせていただいたり、司法書士の先生から指導を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かく詳細に説明ができるようにしている。介護保険改正時にも文章をつけ、説明を行っている。介護報酬改定時などは、文章を送付し、また訪問時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの要望、意見は運営推進会議等で表せる機会を設けている。また、意見箱を設けている。	定期的に事業所便りを発行し、家族へ利用者の状況を伝えている。家族の来訪や電話応対時に、気軽に意見や要望を表出しやすい雰囲気づくりに留意している。出された意見は職員間で検討し、日ごろのケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員とのコミュニケーションを密に図り、職員の意見を聞き入れ、反映できることは、少しでも早く、多く反映できるよう心掛けている。(意見を聞き入れ、一度行動(アクション)を起こしてみることを大切にしている。(危険等が無いよう配慮)年に数回は職員対話を行っている。	管理者や職員は、相互にケアに対する思いや意見を表出ことのできる関係を構築している。また、食事会や個別相談の機会を設け、出された意見や気づきを運営面に反映し、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で介護専門職の資格を有する者が多く、資格については、資格を取ることにより、給与に反映されるにしている。また、労働時間、残業時間も密に管理を行い、残業しなくてもすむ就業環境を目指している。法人全体の取り組みとして、働きやすい環境を目標としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては、最近外部研修への参加も増えてきており、内部の研修も計画を立て行っている。法人には、連携の医師、PT、看護師もおり、常に働きながらトレーニングできる環境を整備している。年々、介護専門職の資格取得者が増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設以来、コンサルティングの指導も受けており、また、他県、他郡市町村の同業者とのネットワークが構築され、研修の行きき、意見の交換が行えるよにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者の方、家族の方ともに安心して、入居できるよう支援している。アセスメントを行い、本人、家族の方が不安に思われている事を少しでも緩和し、入居がスムーズに行われるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者の方、家族の方ともに安心して、入居できるよう支援している。アセスメントを行い、本人、家族の方が不安に思われている事を少しでも緩和し、入居がスムーズに行われるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネージャーを含め、現状の状態を見極め、安易に入居にすすめないよう、一番は現状まで継続してきた生活を尊重している。それら全てを踏まえ、適切な介護サービスが行えるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にも逆に注意を行っているが、あまり近い関係で、馴れ馴れしい態度、ケアにならないようにしている。以上のように、入居者の方と深い信頼関係が提供でき、共に生活を送りながらケアが提供できるよう支援している。（時に怒り、けんかを職員と入居者の方が行うのも大切では）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が、入居になり疎遠になるのではなく、より深い信頼関係が築けるよう支援している。当GHでは、看取りの方が大半であり、本人様の最期に家族様との絆をあらためて強く感じています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、家族の方、知人、親類の方々が訪問され、本人との関係が今後も継続されるよう支援している。隣接してデイサービスがあり、友達の方がスムーズにお会いできるよう、他事業所とも連携を図り支援している。	事業所の周辺が利用者の馴染みの場所となっており、近隣の公園等へ散歩に出かけている。友人や知人との交流も盛んに行っており、馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の方が安定してスムーズに生活が送れるよう、職員が潤滑油の役割になり、関わり合い、支え合いができるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等へ入居されても、電話連絡をとったり、退所しても、何度か訪問し安定した状態で生活が送れているか確認をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方の思いや、暮らしの希望をききき、把握し実践できるように努めているが、管理を踏まえ、どうしてもできないことは多々みられる。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴の把握に努めている。また、日ごろの利用者との関わりのなかで寄りそって接することで、本人の希望する暮らし方の把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者には、言葉や些細な表情の変化等から思いや要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り、家族の方を中心に聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態を踏まえ、入居者の方の有する能力を把握しながら、少しでもADL、IADL、QOLの向上が図れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	GHにおいては、日々の申し送りが日々のカンファレンスであるととらえて、介護計画、ケアへ結びつけている。カンファレンスにおいて、ほとんど家族様の参加は難しいが、常のコミュニケーションで意見を聞き出すようにしている。	職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで把握した本人の思いや身体状況を踏まえたうえで、家族の意向を反映させた介護計画を作成している。毎日のケアカンファレンスや申し送り時に出された意見等を、モニタリングや介護計画の見直しなどに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、日々様子観察、気づきを交えて記載できている。また、介護計画見直し時にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず、ニーズ、入居者の方の状況を踏まえ、環境、サービスの向上が図れるよう、職員の意見を聞きながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いろいろな方の力を借りて、地域の住民として生活が送れるよう心掛け支援している。現在においても十分には、地域資源を活用できているとは思わないので、今後支援できるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは、密に連携が図れており日々の健康管理は密に行っている。かかりつけ医でない病院受診時には、家族の方へ連絡説明を行い、かかりつけ医より紹介状をいただき、スムーズに受診ができるよう支援している。	定期的に事業所の協力医療機関である主治医による往診がある。入居時の段階で、利用者や家族に希望する医療機関を確認するなどして、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、3名介護職員として配置しており、日々の健康管理、Drよりの指示等がスムーズに行えるよう支援している。また、医療連携の看護師にも電話、訪問していただき健康管理、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携は、かかりつけ医及び施設側が直接密に連絡をとり信頼関係が構築、維持できるよう支援している。退院等に関しても、できる限り入院時は（週2）は訪問し、状態の把握に努め、主治医との連携を密に図り、早期退院（受け入れ）が行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に説明を行っている。実際に取り組むときには、Dr、家族、施設側で、適切な時期、段階で十分話を行い、チームで支援できるよう努めている。	入居時の段階で、利用者や家族へ重度化した場合や終末期の支援のあり方について説明を行い、方針を共有している。利用者一人ひとりの状況に応じて、家族や医療関係者、職員間で話しあいを重ねている。チームで取り組む体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、救急時においても、すぐに連絡体制を行えるよう、主治医との連携も図れており、日々Nsより緊急時の対応及び方法、危機管理のあり方を説明するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を実施している。消防職員の派遣指導もお願いし、災害対策に取り組んでいる。地震、津波避難訓練も行う予定です。（現在、避難場所が町により整備されています。）	年2回、地元の消防署の協力を得て避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も実施している。避難訓練や備蓄品等の議題を運営推進会議で取りあげるなどして協議を行っている。地域や行政との協力体制の構築に努めており、迅速な避難を意識して取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の誇りを尊重し、プライバシーの配慮は行えている。管理者より、日々入居者の方々への声掛け等の注意、指導をおこないながら、職員同士においても、確認し合っている。	職員は、利用者に寄りそう姿勢で穏やかに接しており、介助時の言葉かけにも留意している。日ごろから、一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密に図りながら、本人の思いや希望を表したり、自己決定が行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、入居者の方のペースに合わすよう心掛けているが、職員が少ない時間帯など、支援が困難な時も多くみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい：個性を十分に尊重しながら、それとなくサポートをしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備に関しては、調理に関しては一括調理が中心になっている。食材の処理（皮むきなど）は、できるかぎり行っていただくようにしている。後片付けに関しては、一部の入居者の方は、毎日の日課になっている。	併設事業所と一括で調理したものを事業所に運び込んでいる。利用者の身体状況に応じて食事形態を工夫している。利用者と職員は、ともに食卓を囲んでおり、楽しい雰囲気のなか食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、栄養士はいないが、Drよりの健康面でのカロリー、水分等の指示があり、Nsを中心に栄養面での管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方一人一人にあったケアを行い、口腔内も清潔保持に努めている。歯科医の訪問診療も受けている。（必要があれば）		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンの把握、個々にあったオムツ類の支援を行い、できる限りオムツ等の使用を減らし、また失禁回数が少なくなるよう支援している。トイレ介助を行うことは、尿意、便意の有無だけでなく、ADLの維持、向上も考えられるので、できる限りトイレでの排泄援助を心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄することができるよう声かけや誘導を行っている。排泄の自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、適度な運動には心掛けながらも、医療面との連携を図り、緩下剤、浣腸等でスムーズな排泄が行えるよう管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	どうしてもおおよその入浴の時間帯は決まっている。(午後2時ぐらいから)毎日入浴を行えるようにしており、その日の気分で入浴が行えるよう支援している。入浴回数の管理、状態により入浴を控えていただく時もあります。	毎日、利用者一人ひとりの意向を確認し、体調に応じて入浴することができるよう支援している。重度化傾向にある利用者には機械浴を活用するなどし、安心して入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて体力、日々の状態も違うので、そのときに応じた対応、過ごし方、ケアの仕方を話し合い、医療面での注意事項も踏まえて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携は密に図れており、また介護職としてNsを配置しており、いつでも聞ける体制を整備している。また、新しい薬が処方されたときには、Nsより介護職員へ周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、張り合いのもてることは、職員が話し合いを行いながらすすめている。現状での本人の意欲を引き出し、張り合いのある生活を送れるようには努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって戸外に出かけることは、困難さがみられ、できる限り希望される所、戸外へ出ることは積極的に支援している。ボランティアを通じての外出は現在ありません。	天気の良い日には、近隣や公園で散歩を楽しんでもらっている。ドライブを兼ねて買い物へ出かけたり、弁当を持参して近くの海辺へ行ったりすることもある。花見や地元の祭りなどの行事、神社参拝等、季節に応じて戸外へ出かけることができるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかAユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の方が施設での立替払いをされているが、個々に家族の方の承諾を得て、数千円程度もたれ、支払われるかたもおられます。全てレシートで、何を購入また、使用したか家族の方へ説明が行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、家族の方の了承をいただき、家族の方への電話支援を行っている。また、お正月、暑中見舞いなど、入居者の方、担当職員とで手作りでハガキを作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人にあった共有空間は困難でありますが、できる限り、住居されている方全員が居心地よく生活が送れるよう努めている。	共用空間には明るい日差しが差し込んできている。木の温もりを感じることのできる、家庭的で居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においても、ソファ、掘り炬燵等時には仲良く、時には落ち着いて生活が送れるよう環境面の整備を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にもできる限り、使い慣れたものをお持ちして頂くようお願いしている。個々に応じて環境を見直し、居心地よく生活が送れるよう支援している。	入居時の段階で本人や家族と相談し、自宅で使い慣れた家具や調度品、電気製品等を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの生活習慣に寄りそって支援し、安心して居心地良く生活することができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	第一に安心して、混乱無く生活が送れるよう支援している。一人一人にあった福祉用具、居室の環境等、話し合い、工夫を行い安全に、安全に生活が送れるよう努めている。また、分からない所には、表示、目印の工夫を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念『温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を提供します』があり、その代表として、「人生最期の時を過ごしたい」、「私の人生は幸せだった」と心から感じて頂けるよう、介護サービスを行います。朝礼、ミーティングで毎日唱和している。また、事務所、フロアに啓示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事ごと、祭り等の催し物については、入居者の方の状態、また季節的なことも考慮し、安全に参加できるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、また居宅介護支援事業所等からの相談もあります。また、入居希望、そうでない相談も電話等でいただき、これまで培った認知症症状の理解、支援方法の相談をしている。また、分からないことは医療連携機関のDrに相談し、少しでも相談者が安心していただけるよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね年6回以上の開催を行っています。取り組みの状況報告、行事、事故報告、事故対応についての報告を行い、様々な意見をいただき、報告書にまとめ職員に周知し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回は行政担当者窓口へ出向いています。また、わからないこと、つたえるべき事は電話での連絡も密に行えています。また、行政担当者が運営推進会議への参加もあり連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事項は玄関先にも啓示しており、身体拘束を行わないようケアに取り組んでいます。常時、職員会議、ミーティング等において、身体拘束にあたるか、また、近い状態であるかを話し合い、身体拘束がないよう心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待がないよう日々職員の処遇に気を付け、また、他職員からの情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。時に全員周知で、管理者申し送りを行い、日々の処遇について考えさせる機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、GHには日常生活自立支援事業、成年後見の入居者の方はおられないが、併設するサービス付き高齢者向け住宅の入居者には対象者がいるので、担当者と一緒に話しをさせていただいたり、司法書士の先生から指導を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かく詳細に説明ができるようにしている。介護保険改正時にも文章をつけ、説明を行っている。介護報酬改定時などは、文章を送付し、また訪問時に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの要望、意見は運営推進会議等で表せる機会を設けている。また、意見箱を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員とのコミュニケーションを密に図り、職員の意見を聞き入れ、反映できることは、少しでも早く、多く反映できるよう心掛けている。(意見を聞き入れ、一度行動(アクション)を起こしてみることを大切にしている。(危険等が無いよう配慮)年に数回は職員対話を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で介護専門職の資格を有する者が多く、資格については、資格を取ることにより、給与に反映されるにしている。また、労働時間、残業時間も密に管理を行い、残業しなくてもすむ就業環境を目指している。法人全体の取り組みとして、働きやすい環境を目標としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては、最近外部研修への参加も増えてきており、内部の研修も計画を立て行っている。法人には、連携の医師、PT、看護師もおり、常に働きながらトレーニングできる環境を整備している。年々、介護専門職の資格取得者が増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設以来、コンサルティングの指導も受けており、また、他県、他郡市町村の同業者とのネットワークが構築され、研修の行きき、意見の交換が行えるよにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者の方、家族の方ともに安心して、入居できるよう支援している。アセスメントを行い、本人、家族の方が不安に思われている事を少しでも緩和し、入居がスムーズに行われるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	緊急な入居以外は、何度か訪問し、入居者の方、家族の方ともに安心して、入居できるよう支援している。アセスメントを行い、本人、家族の方が不安に思われている事を少しでも緩和し、入居がスムーズに行われるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネージャーを含め、現状の状態を見極め、安易に入居にすすめないよう、一番は現状まで継続してきた生活を尊重している。それら全てを踏まえ、適切な介護サービスが行えるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にも逆に注意を行っているが、あまり近い関係で、馴れ馴れしい態度、ケアにならないようにしている。以上のように、入居者の方と深い信頼関係が提供でき、共に生活を送りながらケアが提供できるよう支援している。（時に怒り、けんかを職員と入居者の方が行うのも大切では）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が、入居になり疎遠になるのではなく、より深い信頼関係が築けるよう支援している。当GHでは、看取りの方が大半であり、本人様の最期に家族様との絆をあらためて強く感じています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り、家族の方、知人、親類の方々が訪問され、本人との関係が今後も継続されるよう支援している。隣接してデイサービスがあり、友達の方がスムーズにお会いできるよう、他事業所とも連携を図り支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の方が安定してスムーズに生活が送れるよう、職員が潤滑油の役割になり、関わり合い、支え合いができるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等へ入居されても、電話連絡をとったり、退所しても、何度か訪問し安定した状態で生活が送れているか確認をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方の思いや、暮らしの希望をききき、把握し実践できるように努めているが、管理を踏まえ、どうしてもできないことは多々みられる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り、家族の方を中心に聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態を踏まえ、入居者の方の有する能力を把握しながら、少しでもADL、IADL、QOLの向上が図れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	GHにおいては、日々の申し送りが日々のカンファレンスであるととらえて、介護計画、ケアへ結びつけている。カンファレンスにおいて、ほとんど家族様の参加は難しいが、常のコミュニケーションで意見を聞き出すようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、日々様子観察、気づきを交えて記載できている。また、介護計画見直し時にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず、ニーズ、入居者の方の状況を踏まえ、環境、サービスの向上が図れるよう、職員の意見を聞きながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いろいろな方の力を借りて、地域の住民として生活が送れるよう心掛け支援している。現在においても十分には、地域資源を活用できているとは思わないので、今後支援できるよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは、密に連携が図れており日々の健康管理は密に行っている。かかりつけ医でない病院受診時には、家族の方へ連絡説明を行い、かかりつけ医より紹介上をいただき、スムーズに受診ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、3名介護職員として配置しており、日々の健康管理、Drよりの指示等がスムーズに行えるよう支援している。また、医療連携の看護師にも電話、訪問していただき健康管理、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携は、かかりつけ医及び施設側が直接密に連絡をとり信頼関係が構築、維持できるよう支援している。退院等に関しても、できる限り入院時は（週2）は訪問し、状態の把握に努め、主治医との連携を密に図り、早期退院（受け入れ）が行えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に説明を行っている。実際に取り組むときには、Dr、家族、施設側で、適切な時期、段階で十分話を行い、チームで支援できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、救急時においても、すぐに連絡体制を行えるよう、主治医との連携も図れており、日々Nsより緊急時の対応及び方法、危機管理のあり方を説明するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を実施している。消防職員の派遣指導もお願いし、災害対策に取り組んでいる。地震、津波避難訓練も行う予定です。（現在、避難場所が町により整備されています。）		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方の誇りを尊重し、プライバシーの配慮は行えている。管理者より、日々入居者の方々への声掛け等の注意、指導をおこないながら、職員同士においても、確認し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密に図りながら、本人の思いや希望を表したり、自己決定が行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、入居者の方のペースに合わすよう心掛けているが、職員が少ない時間帯など、支援が困難な時も多くみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい：個性を十分に尊重しながら、それとなくサポートをしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備に関しては、調理に関しては一括調理が中心になっている。食材の処理（皮むきなど）は、できるかぎり行っていただくようにしている。後片付けに関しては、一部の入居者の方は、毎日の日課になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、栄養士はいないが、Drよりの健康面でのカロリー、水分等の指示があり、Nsを中心に栄養面での管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方一人一人にあったケアを行い、口腔内も清潔保持に努めている。歯科医の訪問診療も受けている。（必要があれば）		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンの把握、個々にあったオムツ類の支援を行い、できる限りオムツ等の使用を減らし、また失禁回数が少なくなるよう支援している。トイレ介助を行うことは、尿意、便意の有無だけでなく、ADLの維持、向上も考えられるので、できる限りトイレでの排泄援助を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、適度な運動には心掛けながらも、医療面との連携を図り、緩下剤、浣腸等でスムーズな排泄が行えるよう管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	どうしてもおおよその入浴の時間帯は決まっている。(午後2時ぐらいから)毎日入浴を行えるようにしており、その日の気分で入浴が行えるよう支援している。入浴回数の管理、状態により入浴を控えていただく時もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて体力、日々の状態も違うので、そのときに応じた対応、過ごし方、ケアの仕方を話し合い、医療面での注意事項も踏まえて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携は密に図れており、また介護職としてNsを配置しており、いつでも聞ける体制を整備している。また、新しい薬が処方されたときには、Nsより介護職員へ周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、張り合いのもてることは、職員が話し合いを行いながらすすめている。現状での本人の意欲を引き出し、張り合いのある生活を送れるようには努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって戸外に出かけることは、困難さがみられ、できる限り希望される所、戸外へ出ることは積極的に支援している。ボランティアを通じての外出は現在ありません。		

自己	外部	項　目	自己評価　ぽかぽかBユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半の方が施設での立替払いをされているが、個々に家族の方の承諾を得て、数千円程度もたれ、支払われるかたもおられます。全てレシートで、何を購入また、使用したか家族の方へ説明が行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、家族の方の了承をいただき、家族の方への電話支援を行っている。また、お正月、暑中見舞いなど、入居者の方、担当職員とで手作りでハガキを作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人にあった共有空間は困難でありますが、できる限り、住居されている方全員が居心地よく生活が送れるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においても、ソファ、掘り炬燵等時には仲良く、時には落ち着いて生活が送れるよう環境面の整備を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にもできる限り、使い慣れたものをお持ちして頂くようお願いしている。個々に応じて環境を見直し、居心地よく生活が送れるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	第一に安心して、混乱無く生活が送れるよう支援している。一人一人にあった福祉用具、居室の環境等、話し合い、工夫を行い安全に、安全に生活が送れるよう努めている。また、分からない所には、表示、目印の工夫を行っている。		